

しおじり

No.316

令和7年11月1日 発行

発行 塩尻市中央公民館

編集 館報編集委員会

ホームページ・各種 SNS は巻末よりご確認ください

塩尻市 中央公民館

検索



紙面連動！新しい館報の読み方

スマートLook

講座予約が簡単！
写真も動画も追加で見れる！



TOPICS

- ▶ 公民館「食」に関わる講座
- ▶ 夏休みの学習支援
- ▶ 中央公民館講座紹介

8月1日 サマースクール公民館 お昼ごはん

ぶどう棚

今年の夏、日本列島はまるで灼熱のベルトに包まれたかのようだった。6月中旬からすでに35度を超える猛暑日が各地で観測され、気象庁は「異例の早さでの酷暑入り」と警鐘を鳴らした。7月、8月もその勢いは衰えず、東京では連続猛暑日が過去最長を記録、熱中症による救急搬送者数も統計開始以来最多に達した。塩尻でも30℃以上の真夏日は75日、うち35℃以上の猛暑日は11日で過去最高になった。

もはや「異常気象」という言葉が日常語になって久しいが、それでも毎年、記録を塗り替える暑さには慣れることがない。エアコンのない生活は命に関わるものとなり、外出するにあたっては熱中症対策が必須だ。子どもたちは屋外で遊べず、高齢者は冷房代に悩み、農作物は例年通りに育たない。以前は夏休みと言えば、学校のプール開放日も数日間あったが、猛暑の影響もあり、プール開放日もなくなってしまった。猛暑は単なる不快な気象現象ではなく、私たちの暮らしの根幹に影を落とし始めている。

この夏、公民館では、長期休み期間の子どもの居場所づくりとして学習ひろばを各地で開催した。夏休みの宿題の支援やレクリエーション、様々な講座の開催、そして昼食の提供などを行った。地域の大人たちの協力により、子どもたちはエアコンの効いた涼しい環境で過ごし、夏の思い出づくりが出来ただろう。

ただ来年以降の夏も、終わらない夏が私たちに猛暑の問題を突きつけていくだろう。「どうやって耐えるか」だけではない。「どうすれば、次の世代にこの暑さを引き継がずに済むのか」その問いに、社会全体で向き合う時が来ている。